

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 23-010

PDCA	事務事業名	道路舗装事業(維持修繕・改修)	部課等名	建設部 土木課 維持管理担当	担当	榊原	
					内線等	440	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節： 第2節 都市基盤の整備 基本施策： 3. 交通体系 単位施策： (2) 生活道路の整備 個別施策： ①安心して利用できる道づくり					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	市道における、舗装の適切な維持管理により、道路交通の安全確保を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	道路パトロールおよび路面点検調査の結果による修繕計画に基づき、予防保全的な観点から計画的に修繕を進めていく。また、住民要望等により確認した案件については、緊急性、必要性を十分に精査し、適切に修繕を実施する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①住民要望(個票)により実施した件数	12	4	5	件	
		②住民からの口頭等の要望及び道路パトロールでの発見	424	396	162	件	
		③過年度要望を予算化して実施した件数	12	14	37	件	
		事業費	324,037	189,318	249,696	千円	
		人件費	12,447	13,094	12,122	千円	
		総事業費	336,484	202,412	261,818	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①舗装新設・修繕工事1件当たりのコスト	751	489	1,283	千円		
	②						
	③						
	成果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①舗装修繕・改修路線数	実績値	22	14	14	路線
			目標値	12	14	9	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	B					
		修繕計画に基づき、目標としていた9路線に加え、道路パトロールで発見した緊急に修繕が必要な5路線の舗装修繕工事を実施し、安全性の向上を図ることができた。路線によって劣化の進行度合いが異なるため、劣化度を反映させた計画に見直しをする必要がある。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
		令和元年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①舗装修繕・改修路線数			5	路線